

講演テーマ: ケーブルテレビの現状

H26.5.21

S54年度電気工学科修士課程卒

当初、テレビの再送信から開始されたケーブルテレビは、多チャンネル、インターネット、電話のサービスを追加し、現在、世帯普及率は50%を超えています。これに伴い、ケーブルテレビは同軸伝送帯域が470MHz帯から770MHz帯に広がり、さらに現在ではより情報を多く伝送できるように光化が進んでいます。また、ひかりTV、フレッツ光との競争も激しくなっています。

今回、ケーブルテレビの伝送方式と最新動向を、1時間程度で主観を交えながらお話ししたいと思います。

1 ケーブルテレビの歩み

ケーブルテレビは、ハードの開発と法律の改正とともに発展してきた。23年度の放送法等の一部改正について説明。

2 ケーブルテレビの普及状況

世帯普及率は西高東低で50%を超えている。また、幹線の光化は62%となっている。

3 ケーブルテレビの伝送方式

地上、BS、110CS、CSの無線伝送方式は異なっており、STBで受信できるようにケーブルテレビの伝送方式に変換する。

4 ケーブルテレビの光化

現状の光対応のケーブルネットワークと宅内設備について

5 DOCSIS

HFC上のケーブルインターネットの大幅な高速化を可能とするケーブルモデム技術を用いて、FTTHへの段階的移行の可能性について考える。

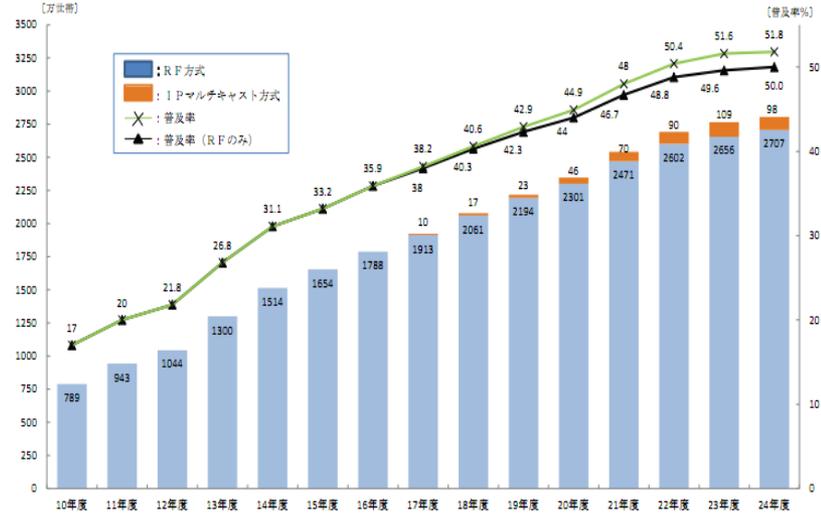
6 今後

最新のSTBサービスについて説明し、放送と通信の連携時代のケーブルテレビの生き残りについて考える。

ケーブルテレビの加入世帯数・普及率の推移

- ・ケーブルテレビ加入世帯数は年々増加し、平成25(2013)年3月末には2,804万世帯。
- ・普及率は51.8%まで上昇。

※平成22年度までの統計値は、自主放送を行う旧幹線放送及び旧電報電話線利用放送線の整備を受けた後の数値(旧有線放送利用放送線の加入世帯数、普及率の推移)。



平成26年4月 総務省報道資料より ※普及率は、前年度末の住民基本台帳世帯数から算出。

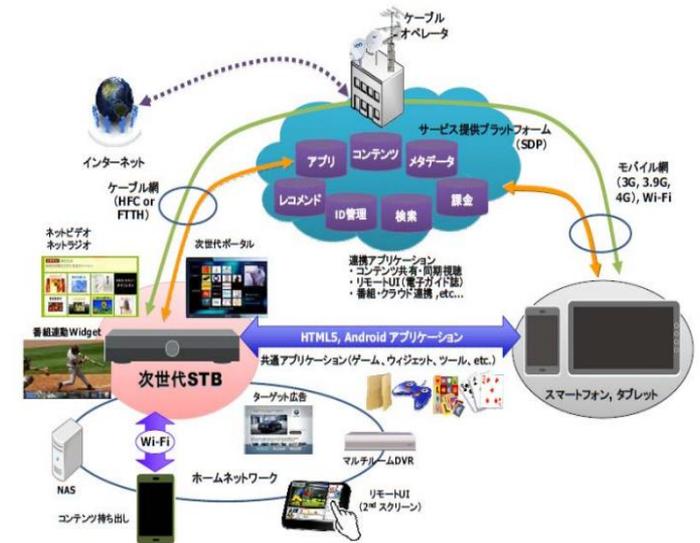


図1 想定されるサービス提供形態例

(日本ケーブルラボ発表資料より引用)